

論壇

子育て上手はお願い上手

としては「私は、こんなにあなたのために頑張っているのに」と、次第にわが子を単純に愛することが難しくなっていく。

現代の子どもたちが感じる「毒親」「親ガチャ」と「親を選べない」というような風潮もいかなものかと思うが、子どもを「支配」するような過保護、過干渉、ネグレクト、無関心は大人の問題だ。

子どもたちは、私たちに幸せをいっばい与えてくれると同時に親は「これでいいのか」と迷うことは多々ある。現代の子育ては、ネットの情報に頼ることも多いが、もっとたくさんの方々をつながって、関わってもらいながら子育てすることを提案したい。「子育て上手はお願い上手」。子どもと周りの方々に育ててもらおう親でありたい。

子育ては、どの時代も大変かもしれないが、情報過多の現代はさらに難しくなっている。特に子育ての環境、親子の気持ちのすれ違いで起こるもろもろの問題、虐待、子育てのしづらさなどを考えたとき、一番の問題は「子どもの発達」に即した子育てを知らないことが原因なのではと思う。

悲しいことに2021年度に虐待死した子どもは74人で0歳が24人で最も多かった。このうち生後

親と周囲との関わり

1カ月未満が最多の6人で、うち3人は生後24時間未満で亡くなった(朝日新聞9月8日付)。

望んだ妊娠をされたとき、不安とともに期待感もいっぱいだろう。出産という大役を乗り越えて、子どもと共に退院して家に帰ってきた時の感情はきつと忘れられない。子どもを授かり、育てていくという大業の責任に押しつぶされそうになる。やっと落ち着いたらと思った1カ月目、母親の心身はボロボロになりながら子育てをしている。3カ月、6カ月、9カ月、1歳、そして定型発達であれば歩行し始め、一人で食することもでき、言葉が分かり、発声、発語しようとする1歳半に成長してい

く。しかし、その節目節目で親は戸惑う。自己主張しながら、探索活動するので思い通りにならないうわが子を前に苦しむこともある。

「Mama Do you love me?」というアラスカの子どもが母親にどれだけ自分を愛しているかを尋ねるやりとりの絵本がある。「どれくらい?いつまで?こんな失敗しても?こんないたずらしても?」と、そして「牛になっても? セイウチになっても?」と続く。子どもは、信頼できる大人かどうかを知るためにいろんなことを試していく。子どもは、どんな思いでも受け止めてほしいだけなのだが、親

として「牛になっても? セイウチになっても?」と続く。子どもは、信頼できる大人かどうかを知るためにいろんなことを試していく。子どもは、どんな思いでも受け止めてほしいだけなのだが、親



ウィンフィールド
ひろみ

(浦添市、保育園園長、58歳)